

栃木県議会議員

平木ちさこ 活動レポート

元気ネット

発行
平木ちさこ
事務所
〒321-1274 栃木県日光市土沢1962
TEL 0288-26-6739
FAX 0288-26-6759
Eメール hiraki-chisako@nifty.com

ホームページ <http://hirakichisako.com> (奇数月末日更新)

高齢者がミシミシと増えている。だがその深刻さをまだどうしても実感し切れない。ある介護関係者は、一人ひとりが生涯現役で死ぬまで支え手となる！くらいの気持ちがあればこれからの重高齢社会を乗り越えて行ける、と言う。

要支援1,2が介護保険から外れて日常生活支援事業に移行した。これは市町が行なう事業だが、デイサービスやホームヘルプの一回当たりの報酬がこれまでの介護保険の報酬の3割減まで下げることが出来るという国の方針で、宇都宮市はすでに3割カット、さくら市等は2割カット、高根沢町等は1割カット、日光市は今のところ従来通り。このように報酬は各自自治体任せなのだ。

この報酬カットのために、これまで要支援の人たちを受け入れてきた県内のデイサービスやホームヘルプの事業者は、これでは経営がなり行かないとして、要支援者へのサービスを打ち切ったところも少なくない。

そしてその代わり？に総合支援事業の中で、地域で支え合おうということになった。

自治会等が、地域にお茶飲み場を作ったりゴミ出しを手伝ったりする。確かに理想的ではあるがなかなか難しい面もある。自分はどうか、私はお隣さんに毎度、ゴミ出しをお願いできるかな？ なかなか近所にヘルプ、助けて欲しいと、言うことの難しさを感じる。

いざという時なら言えるが、日常的に毎回ということになると、ちょっと考えてしまう。人に迷惑を掛けたくないというのは、裏を返せば人に迷惑を掛けられたくないということだ、との説もある。なるほど…。

ギブ＆ギブの負担感、テイク＆テイクの負担感、これらの継続性、血の繋がった家族でさえ、遠慮しながら暮らしている昨今ではないか。

今から20年前、そんな負担感を無くそうと、今市では…

有償家事援助サービスを始めた団体がある。ボランティアでお世話になるからお菓子を用意しないと、何かお礼をしないと、とどうしても気を使う。そんな高齢者を見て若干のお金をいただければ気づかいは要らないのでは、との思いで始まった。つまり単発ならまだしも、日々の生活を恒常的に支え、支えられるとなると完全な無償ボランティアの限界をお互いに感じて、生まれたサービスだ。

今も介護保険事業以外の、高齢者や障がい者の家事援助や移

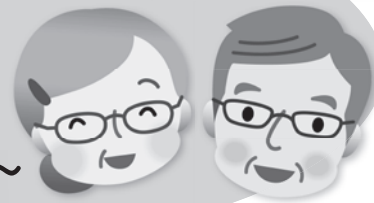
送サービスで喜ばれている。今回の要支援切りは、また20年前に揺れ戻した感がある。

また、旧日光地区では何年か前から自治会が音頭を取り、本当にわずかなお金でゴミ出しや、寄り合い所をボランティアで行ない、そのお金は自治会に寄付される仕組みを成功させている心強い地域もある。

とにかく高齢者が増える中、力を出し合ってまずは何とかやってゆくしかないようだ。

歳はとっても支え合おう！

～90歳の元気な人が
70歳の弱い人を
ちょっと手助けする～



怒る人もいる。

一方で、極力、公的介護を利用して家で暮らそうと始まった介護保険の筈。なのに、軽度の人たちへのサービスを介護保険から外して、重度の人向けの介護医療

院なるものを介護保険の中に新たに新設し

ようとしている。このサービスは一人当たり月に358,000円。全国でおよそ8,000億円を見込む。そんな施設が地域に出来ればまたまたその自治体の介護保険料が上がる。

ならばそんな施設を作るよりもっと軽度者である要支援1,2を介護保険制度の中に再度、戻した方が制度の理念に叶っている！という主張だ。確かに軽度者をていねいにケアすることで、重度化を防いだり、その速度が緩やかになるというのは私も経験してきた。

2000年から始まった介護保険も、当初はサービスを受けた利用者の自己負担は1割だったが、財政難から現在は280万円以上の年間所得のある人は2割、そしてこの8月からは344万円以上の所得の人は3割負担となる。3割負担となる人は全体の3%、12万人となる見込みだ。

2～3割の方はそれほど多くはないと思うが、それでもサービス利用の抑制はすでに始まっているという。

それと私がふと不安に思うのは、特別養護老人ホームの多床室、つまりユニット型個室ではない古いタイプの老人ホームはこれまで所得によっては安いため、まだ何とか、という安心感があった。

しかし、国ではこれらの相部屋についても「個室のように多床室の室料相当額を支払うように見直しが必要だ」と言っている。これは困る、マジ困る。

根強い介護スタッフ不足！

施設、とりわけ夜勤のある施設で働く介護スタッフが足りない。そこで、介護保険のAI化を図ろうとの国の方針がある。

介護ロボと言うが、移乗や見守りセンサーなどは [裏面に続く](#)

《一般質問のお知らせ》

日時 5月29日(火) 11時25分～12時25分

内容 働き方改革・災害対策・日光明峰高校・日光市の交通渋滞対策・高齢者介護・精神障がい者施策・医療的ケア児への対応 他

※傍聴応援を宜しくお願いいたします。

平木事務所から乗り合わせて10時に出発します。
お申し込みは ☎26-6739 へ
なお、栃木テレビや栃木放送でもご視聴いただけます。

有効だが、おむつ交換などはやはり人の手でなければ出来ない。

ケアマネの仕事もコンピュータがケアプランを立てればケアマネ要らなくなるというのだ。しかし、東北大震災の際、まず真っ先に一人暮らしの家に駆けつけたのは担当ケアマネだったことを忘れてはいけない。やはり人の力は大きいのだ。

ヘルパー研修終了者もすでに383万人いるが、そのうち42万人しかホームヘルパーとして働いていない。

9年前から介護労働者の処遇加算が4回にわたって行われ、順当に加算されれば一人当たり月に43,000円が加算されたことになるが、現実には追いついていない。加算を取るには人員配置や資格、研修を受けているかなど様々な基準を施設ごとにクリアせねばならないためだ。

サラリーマンは“サラリー”で働くもの！

介護現場で働く人たちが足りないのは、やはり給料・賃金の問題だと私は思う。サラリーマンはサラリーで働くも

の。決して優しさや根性論では追いつくものではない。認知症が増え、特別養護老人ホームの入所条件も要介護3以上となった。それだけ介護の仕事自体もしっかり重度化しているのだ。

介護に限らず、業務や人間関係は辛いけれど、よそに行っても今ほどの給料はもらえないから、と、今の職場に定着している人は少ないだろう。

介護人材を増やすにはやはり、給与・賃金のアップが一番だ。きれいごとではない。イメージややり甲斐は二の次だと断言してもよい。

栃木県は製造業が多いため、若い男性が多いという。何とか若い女性の流入をと言うのなら、介護や保育、看護の資格を持つ若い女性たちが、仕事をするなら栃木県！と選んで来てくれるような具体的な施策が必要だ。



慎んでご報告します ▶ 平木ちさこは、この度「立憲民主党」へ入党しました。

民進党が5月7日、希望の党の一部の人たちと一緒に国民民主党へと名称を変更しました。そのためそのまま「国民」へ移行する、または離党して無所属になる、離党して立憲民主党へ入党する、と三択が迫られました。

私は、後援会の役員会と、民進党日光市支部の幹事会の了承を得て、憲法9条を守ること、安保法制の撤廃、脱原発の一日も早い実現、それらを目指す立憲民主党(枝野代表)を選択しました。

引き続きのご支援・応援のほどをどうぞ宜しくお願いいたします。

【立憲民主党の栃木県連合設立大会のご案内】

- 日時：6月10日(日) 10:00～ 枝野幸男代表演説
- 会場：宇都宮グランドホテル

入場無料

※参加ご希望の方はご一報下さい。乗り合わせも可。

立憲民主党 党員 党費 6,000円/年
 サポーター 1口 500円/年

(2口以上の分は県連への寄付とさせていただきます)

*引き続きの応援のほど宜しくお願いいたします！



6・7月の催し

※会場はいずれも平木事務所です

元気会 毎月第1土曜日 10時～11時30分

- 日時▶ 6月2日(土) 7月7日(土)
- 会場：元気ネット事務所(日光市土沢1962)

女性の茶話会 毎月第1水曜日 19時～21時

- 日時▶ 6月6日(水) 7月4日(水)
- 会場：元気ネット事務所(日光市土沢1962)
- 参加費：300円(軽食付き)
- 申込み：☎0288-26-6739(前日まで)

県政について、みなさんのご意見をお寄せください。



市長選の応援ありがとうございました。



長谷川さんも若さ溢れる選挙活動を展開されましたが、及びませんでした。

私と平木後援会も推薦させて戴いたのに、ご本人には本当に申し訳なかったと思っています。結果が出た後、電話を差し上げた方々からは、口々に「まだ若いんだから次があるよ」とのお言葉をたくさん戴きました。

4陣営とも悲喜こもごもの選挙でしたが、私としては珍しく、終わってからも2週間ほど夜な夜な選挙の夢をみていました。それもまだ選挙運動をしている夢でした。往生際が悪いのでしょうか…。

長谷川さんは、実に天晴れな人です。心から再チャレンジを期待しています。

※平木ちさこは、HPオフィシャルサイトまたはFBに、「今日の活動」を毎日アップしています。どうぞご覧ください。(平木ちさこで検索してください)

【Eメール】 hiraki-chisako@nifty.com

※平木ちさこの「元気ネット」ホームページは奇数月末日更新です。

※平木ちさこオフィシャルサイト <http://hirakichisako.com>

平木ちさこ 検索

